

芽室町総合保健医療福祉協議会
令和4年度 第2回地域福祉部会
会議記録

日 時 令和4年 11 月 21 日(月)
午後6時 25 分～午後7時45 分

場 所 芽室町役場 地下会議室5・6

健康福祉課社会福祉係

○ 会議次第

- 1 開会
- 2 部会長挨拶
- 3 協議事項

(1)第5期地域福祉計画(素案)について

- 4 閉会

○ 出席委員 6人

鈴木 昇
古川 誠
小椋 孝雄
白銀 孝志
若狭 富美子
矢野 征男

○欠席委員 2人

宇野 克彦
前田 尚宏

○ 傍聴人 0人

○ 事務局

健康福祉課長 大野 邦彦
社会福祉係長 上寫 寛
社会福祉係主査 角 諭志

○ 高齢者部会

高齢者支援課長補佐兼在宅支援係長 佐々木 博史
高齢者支援課長補佐(地域包括支援担当) 塚田 直子
在宅支援係主査 柳澤 倫世

午後6時25分 開会

1 開会 司会:角社会福祉主査

2 鈴木部会長あいさつ

3 協議事項

(1)第5期地域福祉計画(素案) について

事務局の社会福祉係長から、第4期計画から変更・加筆した部分を説明し、その後質疑等を受ける。

質疑応答

古川委員

障がい者通勤サポートの対象人数は

事務局(大野課長)

4人を予定している。東工業団地や帯広市に通勤する方々のためのサポートで町内企業3社、帯広市内1社の予定。

白銀委員

20ページ、市街地町内会連合会について、現在、加入率の減少が顕著である。ここに記載の取り組みが実現できるように考えてほしい。加入率減少がじわじわ進んでおり、町も町内会も本気になって取り組んでいかないといけない。よろしくお願いします。

鈴木部会長

隣が辞めるから私も辞めるという方も多い。アパート入居者の未加入の問題もある。

若狭委員

役員が終わったから町内会をやめる方もいる。残念に思う。コロナ禍で集まる機会が少ない。加入低下率はどれくらいですか？

白銀委員

不公平感が際立っている。町内会は独立しているがこういう危機的な状況になったらバラバラではなくまとまらないといけない。連合会みんなで知恵を出していく必要がある。1年でやめる人もいるし、10年続ける人もいる。今の連合会はみんな意欲的。大変な時期ということ認識しないとけない。管内で一番加入率が低いと思う。

事務局(角主査)

町内会加入率の低下は、地域福祉分野だけではなく町全体の課題であり、第5期総合計画後期計画でも課題としてとらえ、町としても取り組みを進めていきます。地域福祉

分野においても町内会は重要な位置づけであります。この問題に対しては、町魅力創造課が中心となり、少しでも加入率を増加させる方策を進めていきます。

古川委員

地域福祉活動の中で民生委員が一番住民に身近な存在である。高齢化が進む中、そのような方に進んでアプローチするのが民生委員であるが、活動に限界がある。

もう一点は、38 ページ、地域連携ネットワークの構築で、中核機関の設置を令和7年度に設定した理由は。

事務局(角主査)

民生委員の担い手減少は大きな課題であり、現在欠員地区もあるが、12月の一斉改選時には、欠員地区がさらに増加する見込みです。一度欠員が生じるとその後も選出が難しい。また担当地区については、町内会行政区と一致はしておらず、活動しづらいという声もあります。町としては、担当地区の区割りを見直すことも一つの手法ではありますが、民生委員活動の啓発、負担軽減の方策を検討し、より活動しやすい環境整備を次期計画期間内に進めていきます。

事務局(大野課長)

民生委員の役割を町民等へ周知していく必要があります。

佐々木高齢者支援課長補佐

地域連携ネットワークの構築について、39ページですが、今現在、中核機関の5つの機能のうち、大部分は成年後見センターに委託する形で進めています。今現在、身寄りがないケースも含め、法律的知識が必要な案件を増えてきているので、より成年後見人を充実させていきたいと考えており、令和5、6年度で内容を精査するとともに、関係者と調整し、7年度から、と考えています。

古川委員

民生委員について、行政への橋渡し役を担っていただくにあたり、活動マニュアル、事例集等も必要なのかなと思う。それを作るのは大変だと思う。

白銀委員

私の町内会は、町内会役員から民生委員を出している。いろいろな組織が協力し合わないといけない時代。人権擁護委員も含めて、協力し合っていないといけない。町内会は民生委員より詳しい地域情報もある。実際にやっていないと成果が出てこない。そういう観点を大事にしていきたいと思う。

鈴木部会長

民生委員はコロナの関係で訪問を含めた活動が制約された。戸別訪問は問題ありと

いう状況。地域の方と直接話す機会が減った。ここ2年ほどは活動が十分できていない。

白銀委員

役場全体に聞きたい。これまではコロナで活動が制限されていることがたくさんあったが、ここ最近では急に行事を開催するようになった。経済活動を止めるわけにいかないから行事をすることが多いが、行政はどう考えているのか。どういう観点で、やる、やらないという判断をしているのかが、わからない。

事務局(大野課長)

ゼロコロナからウイズコロナの考えに基づき、町も必要なことはしていく。会議でも感染対策できる場合は開催する現状となっています。

小椋会長

地域包括支援センターが令和4年度から保健福祉センターで活動している。地域包括支援センターへの相談や、めむろんには子育てに関する相談、いろんな相談が来るが、各団体がコーディネートして、縦割りではなく、横のつながりが必要。コロナ禍における相談体制をさらに強化して行ってほしい。

大野課長

制度の狭間にある人等を総合的に支援していく。町でも子育て支援課を設置して子育てに関する相談に特化している。保健福祉課も、健康福祉課と高齢者支援課に分かれてそれぞれの分野で相談体制を強化した。複合的問題の解決に、重層的支援が必要であり、今後は重層的支援を進めていく。以前から困り事はあいあいという周知もしてきており、包括や社協を中心に相談機能を充実させていきます。

白銀委員

人権について。今年は人権教室を推進している。今年度も保育所、幼稚園、学童で人権教室をしてほしいという要望があり、年度後半にも進める。人権教育は必要だと思う。小さいときに思いやり、やさしさを共感することが大事。役場も中に入って、教育委員会とも調整し、行動に移す。それをぜひやってほしい。

近年は精神疾患の人が大変多い。40代で引きこもりもいる。小さいときからやさしさを大事にしてやっていく取り組みを、本気でやっていただきたい。

芽中人権教室を夏に開催したが、「今日の話は先生方に聞かせたかった」という声も聞こえた。子どもの人権意識を育てていくことが重要。

事務局(大野課長)

同じ考えです。今後も進めていく必要がありますし、教育委員会との調整もあります。積極的に進めていきたい。

白銀委員

子供会についても大事にしてほしい。

古川委員

町内会に入っていない子どものことも考えてほしい。町内会に加入していないから、子供会に参加できないのは、阻害されている感じもする。

白銀委員

親が、子どもが中学生になったら町内会を辞めます、という人もいる。入っていない子も引き入れるような配慮も必要。町内会に入っている、入っていないで差別化が必要な面もあるが、子どもはそんなのは関係ないので。子供の活動を充実させていくことが大切です。

事務局(大野課長)

ただいまの御意見を、町として総合的にまとめながら、実践していきたい。

4 閉会

午後7時45分 閉会